P22

上川アップデート・プロジェクト
～上川町の森と人をつなぐオリジナル酒枡の制作2023～

北海道旭川農業高等学校　森林科学科　　佐々木宥紀　鎌田倖大　稲村琉斗

研究の背景･目的

【背景】

本校演習林（写真１）の所在地でもある上川町は、最盛期にとても活気のあった林業が、近年では著しく衰退していることを知りました。昨年度、日頃からお世話になっている上川町へ恩返しできないかと考えていたところ、上川町の森と人をつなぐ製品制作の依頼を上川町よりいただきました。

写真１　旭川農業高校の天幕演習林

私たちは町産材のシラカンバを使用した製品開発をスタートし、上川町には上川大雪酒造があること、また雪をイメージして六角形の酒枡を試作することができました（図）。

図　オリジナル酒枡試作品

研究の内容および成果

【研究の内容】

Ⅰ　酒枡の耐水性試験

試作品の水漏れや変形試験を実施しました。試験方法はＡ、Ｂ、Ｃの酒枡を用意し、それぞれに水を入れて水漏れや変形などの変化が現れるのかを観察します（写真２）。

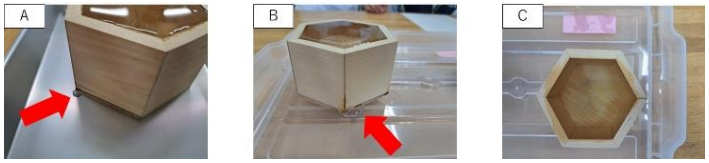

写真２　酒枡の耐水性試験

結果はＡやＢでは水漏れが発生、Ｃは最後まで水漏れが発生しませんでした。ＡやＢの酒枡には、よく見ると隙間が確認できました。このことから、酒枡を丁寧に制作することで、酒枡としての機能を果たすことが証明されました。

しかし、試験終了後、木材が水分を吸収して乾いたことで、とくに底板が変形してしまいました。そこで、底板を下から貼り付ける構造ではなく、側板にはめ込む構造にし（写真３）、表面には自然由来のオイルを染み込ませました。そして同様の試験を実施した結果、水漏れはなく、その後の変形も確認できなかったことから耐水性試験をクリアすることができました。

写真３　酒枡の底板の改良

【目的】

○ 2023年度の活動について

昨年度までの活動では、酒枡のデザインが決定、そして試作品を製作することができました。その試作品の改良およびＰＲ活動を大きな柱とし、今年度の活動の目的は以下のとおりとしました。

１　オリジナル酒枡の耐水性試験を行う。
２　オリジナル酒枡の形状を改良する。
３　酒枡を通じて上川町の森と人をつなぐためのＰＲ活動のためのワークショップを開催する。

- 酒枡としての機能性を確認する。
- ワークショップを通して上川町およびシラカンバ材を用いたオリジナル酒枡をＰＲする。

Ⅱ　酒枡の形状を改良する

①酒枡の大きさを改良する

約300mlの容量から、１合枡の容量と同様の180 mlとして持ちやすさを優先しました（写真４）。

写真４　酒枡の大きさの改良

②側板の厚さを改良する

既存の厚さ10mmから、見た目、口当たりを班員たちで総合的に評価し、側板の厚さを８mmに改良することにしました。

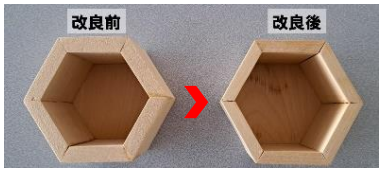

写真５　酒枡の側板の厚さの改良

③飲み口を改良する

口にあたる部分が角ばっていて飲みづらいとの意見もあったため、飲み口の部分は内側に向けてアールを施すこととしました。

写真６　飲み口の改良

Ⅲ　ワークショップの開催

オリジナル酒枡ワークショップは、12月17日に上川町のＰＯＲＴＯで、１月16日には旭川西イオンで実施しました。様々な年齢層の方に体験していただき、上川町について知ってもらえる機会となり、所期の目的を達成することができました。

写真７　ワークショップの風景

今後の展開

昨年度からの課題であった耐水性や形状についての改良を加えることができました。また、ワークショップを開くことができ、上川町やオリジナル酒枡のＰＲ活動ができました。かつて林業の町として栄えた上川町に、木製品開発を通して新たな風を吹き込めるよう、これからも活動を継続していきます。